

あなたも めざせ！世界遺産登録 参加しませんか？

世界遺産を実際に訪ねよう 鎌倉の世界遺産と秘宝を訪ねる会

若宮大路の緑化などに尽力 NPO かまくら緑の会



並木の手入れをする会員

町の基線道路である若宮大路などでの整備奉仕活動は、昭和49年(1974)に始まりました。若宮大路は源頼朝が築いた鶴岡八幡宮参拝のため

に作られ、現在は鎌倉を象徴する道路として利用されています。でも戦後は、松籟の松並木は枯れ、路盤も傷み、往時の面影も失われていました。

そこで地域の商店街の有志が立ち上がって、残った松の間に桜を植え、並木を整備して明るさを作るため、ボランティア活動を始めたのが発端です。その後、行政の修景計画で景観を取り戻しました。電線の地中化、下水道整備、街路灯の設置なども進みました。

「桜を植えるだけでなく、後の手入れを十分行うようにとの行政の指導を受け、微力ながら継続して作業を続けてきました。世界遺産登録のコアゾーンとして、行政の届かない周辺整備にも配慮し、街を明るくするため、定期的に花植えやクリーン運動を行っています」と「緑の会」理事長の高柳英磨さんは言っておられます。

6月の世界環境デーには、市内外からボランティアを募り、一緒に汗をかきました。毎月第2土曜日を中心に基本的には月1回のペースで市民のボランティアによる若宮大路の整備活動を続けています。参加していただける方は、高柳理事長（電話 0467-23-2530、Fax.0467-24-3638）までお申し越してください。

鎌倉の世界遺産登録も近いと言われていますが、まだ世界遺産について十分知られているとは思えません。

そこで鎌倉の世界遺産の史跡や文化財を調査研究し、広く人々に知らせることを目的として、「鎌倉の世界遺産と秘宝を訪ねる会」が平成19年6月に発足しました。会代表の内海恒雄さんを講師に、世界遺産候補地とその秘宝を訪ねる特別拝観や講演会を行っています。

7月は「鶴岡八幡宮見学会」が行われ、史跡や建物を中心とする詳細な案内があり、改めて世界遺産候補地の鶴岡八幡宮の文化財の素晴らしさに感銘しました。

9月は「鶴岡八幡宮の史跡と文化財の見方」の講演会があり、パワーポイント等による豊富な資料を使って、八幡信仰、若宮と本宮の違い、拝殿よりも立派な本殿、宝物の見方など今までとは違う八幡宮が見えてきました。

10月は「建長寺の史跡と秘宝」を訪ね、世界遺産としての史跡や文化財（建物・仏像・庭園等）の持つ意義や見方などを知り、回春院や禅居院の特別拝観もしました。

11月は「寿福寺・英勝寺の歴史と秘宝」を訪ね、公開されていない両寺の本堂の特別拝観などをしながら、両寺の武家政権との関わりなどを知ることができました。



寿福寺にて

事務局の戸村さんは「4・5・9・10月の見学会（6・11月は講演会）は、ふだん見られない秘宝の特別拝観もあり、自由に参加して世界遺産を知ってください」と話しています。参加方法等は戸村さん（電話、Faxとも0467-46-4151）までお問い合わせください。

「古都鎌倉の世界遺産登録」って なに？

鶴岡八幡宮と荏柄天神社は、鎌倉時代から江戸時代を通じて、武家の守護神として崇められていました。これは、平将門が10世紀に関東で反乱を起こした際、「八幡神と天神より新皇の位を授けられた」ということが、後の『将門記』に記述されていたことから、源頼朝が、源氏の氏神であった八幡神を祀る鶴岡八幡宮と併せて荏柄天神社を関東の新しい政権の守護神とし、これを鎌倉幕府に引き継いだことに由来するとみられます。現在、鎌倉時代の建物として唯一残されて

第5回 武家の守護神（鶴岡八幡宮、荏柄天神社）

いる荏柄天神社本殿は、江戸時代初めに幕府が行った鶴岡八幡宮の修理の際に、鎌倉時代末に建てられた「鶴岡八幡宮若宮」を遷したものであり、「この2つの神社を祀る者が、源頼朝以来の武家政権の正統な後継者である」と考えていたことを示しています。そのため両社は、江戸時代を通じて幕府が対で修理を行ってきました。このように、鶴岡八幡宮と荏柄天神社は、鎌倉幕府滅亡後も武家の守護神として大切に伝えられてきた貴重な遺産なのです。